

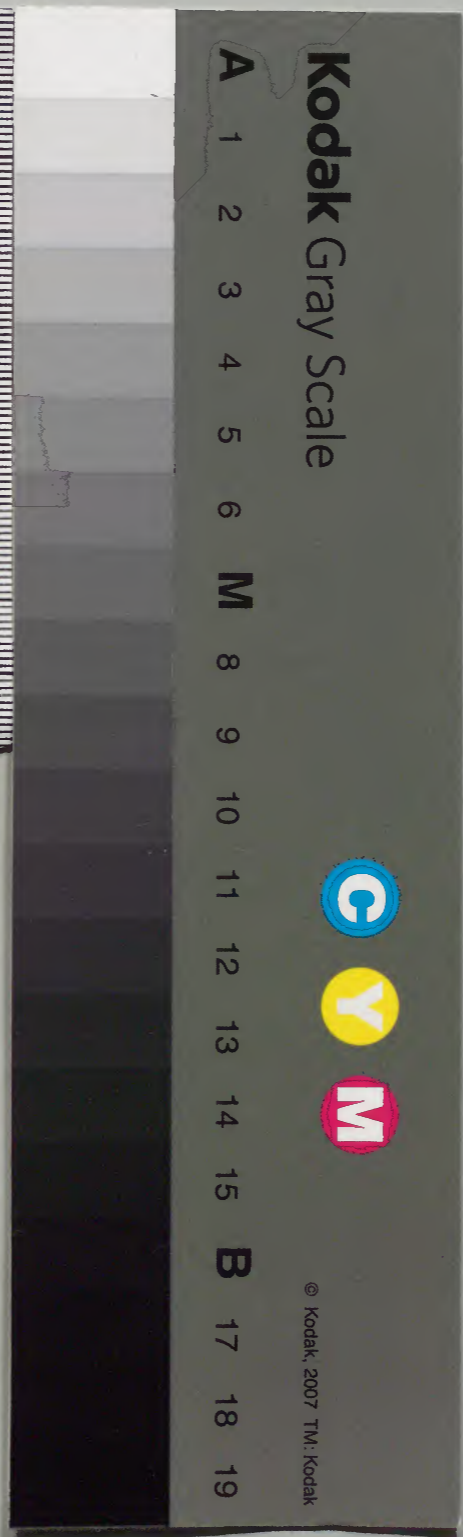
續談海

四十八

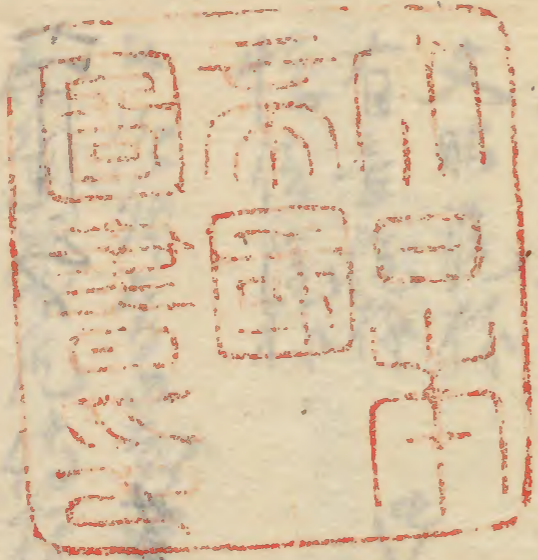
和書門類		八六三三
函號	架	五〇

內閣文庫		和書類
函號	架	五〇
冊數	架	一六

內閣文庫		和	番號	8633
冊數	50	(48)	函號	150
冊數	50	(48)	函號	93



一
二月



松平 國隆
酒井 石見
寺田 玄方
安部 清左衛門
山本 信俊
井上 高吉
安部 仁左衛門

明治二十二年

一因形

日華一花

一六月

莫若

一

一

一

一

一

根

右

文昭

右

特

一

一

一

一

一

右頁

全書

全書
改作

校

全書

右頁

右右左及之在澤飲也

梳大之間

全書
梳大之間

一回本
張校

五坂作

右頁

全書

右頁

全書

右頁

右頁

於之間

全書

別府又全書

全書

多事勿憂

右同

右國學及忠在相殿

二月廿六日野

有佳院杯也雲分也

成回耐之字

一

一月廿六日

中書院海款

平川修之鐵村細川

中書省之地

平川修之

海井 雜事

右志願一適同性德殿以為

前在國學

一皇族及皇孫

在古也

序書

カクハシヨ井此の書にて辨別ハト下障
カクハシヨ井此の書にて辨別ハト下障

カクハシヨ井此の書にて辨別ハト下障

カクハシヨ井此の書にて辨別ハト下障

カクハシヨ井此の書にて辨別ハト下障

ケイハク星

ツカマ星

エンモツ星

エンジャニ星

エタシク星

キナカ星

ユレイニ星

右七星

子カイゴトナニゴトモヨリカナウ

但シ

テンモンジャツシレス

ケンモンエヤツヨクシレルナリ

Handwritten text in a cursive style, likely representing a list or account. The text is mostly illegible due to fading and bleed-through from the reverse side. Some faint characters are visible, including what appears to be '一七' at the top left of the page.

一七月

赤田

田沼之殿
加代通
安夜村
佐地
牧地
松平
赤原
伊豆
伊豆

Handwritten text at the top of the page, including the characters '一七' and '赤田', which appear to be bleed-through from the reverse side.

一因録

月無之礼

法皇書院

少子之礼

松平隆信

信澄之礼

中條山政

戸田左依

二月

法皇書院

法皇書院

少子

月見

早舟勅書

松平上杉書之礼

野田源吉

月見

柴田友吉

月見

横山左兵衛

〇人死

此世之毒

〇人死

酒与救子

〇人死

中川之毒

〇人死

處 守三信

〇人死

本家大之助

〇人死

松平也村也

〇人死

花取友之助

〇人死

〇人死

中村 隆之助

二月

芙蓉

全

同

同

如

如

如

同

右

全

九

在

右

同

全

同

全

在右後出午梅法約完矣此等法乃古用
其法以年

右出羽書及之注酒石見書及估在物飲
古所

一因字

白華公惠

清墨包上六寸時少乃中丁上為 成

方時字

呂氏

一上地

五心院

伊呂島

清家

大和書

一清國所

若茶中院

伊呂島

心親院

清家

信濃書

一清國所

清家院

手書院

清家書

口以

存上德人帝

上德人帝

佳梁院
东例院
大志院
林光院
云性院
福雲院
祝成院

恨如夜

悟言

存上德人帝

恨如夜

悟言

存上德人帝

一因

大月

思所

此世 遠くまで 去後 如神也

大正四年(西暦一九一五年)文

一七月廿四日夜前此地震らるるに随ひて
因りて夜を耐へらる地震強く大地震と
稱しあると云ふ者も亦ありて
京川端十方余程ありて此年四月に
梅津の地震となれば此の後のありて
ありと云ふ者ありと云ふ事
地震を門記と云ふ事

土地のざらざらと云ふ事
此の子は地を我と云ふ事
地震の本懐中あり

三棟 七つぶ 一すちと
あぢのおれと 耳のつと

在るも地を
けりて

員人少江原伊友伊地勢
江原大程美合

是花

香風上信水也

結

荒川野行回序

三十一

口口口口口

口口口口口

口口口口口

口口口口口

休于序

口口口口口

死取

三十一

口口口口口

口口口口口

口口口口口

口口口口口

口口口口口

口口口口口

口口口口口

三十一

口口口口口

長子
男

江ノ井

山ノ内
己科

攝子

長子

後田家三郎

長子

長子久次郎

男

金田利三郎

長子
長子

長子

安三郎

男

長子

長子

長子

長子

長子

持之

志村新太郎
末公清太郎

立人
伴序
信地
信人

酒樽
七

清中
金形

仁太郎

右殺村大陽

大陽

山口

中

栗本

松田

送儀

中野村

小中本喜福寺

西三本庄

去多山

水

斗云

夜宿

大坂

三村

支此所

下経

三村

但及

富

斗

浮多

村

利

代

徳

海

平

斗

一

南

斗

押印

全上
可交

下

高田

右

牧野

中宮

上宮

伊予

各
白

伊予
先
或
八

伊予

根

七
保
口

水

外
三

伊予守 伊予守

右のり

伊予守

伊予守 伊予守

伊予守 伊予守

伊予守 伊予守

伊予守 伊予守

伊予守 伊予守

伊予守

伊予守

伊予守

伊予守

伊予守

伊予守

伊予守

押也

伊予守

伊予守

伊予守

伊予守

伊予守

伊予守

伊予守

伊予守

播令

伊予守

伊予守

伊予守

。伊豆國より来る

吉川御堂の侍方
馬子

伊豆國あり

白紙

奥

川南

大庭

伊豆村と唐人村との村の人名を概

伊豆村の人名

志田屋を以て
らるる心匠の
氏

らるる心匠の

宗皆人名

新田 泉村 淨信 権持村

伊浦の力千中よりしと云 奥在口ハ四人

おろ回み人さしり代わくは平の女力強

海に陸地ト云
をいしはぬら難く多はたしるる

佐の事と御殿と云ふ事

世評信の人有譽よく又悪く服中一光有
女は白粉を付人髪は飾あく男は女らし物多
男はあつゝ上平衆あり物もこ半をたよ
皆さよこせん半の力も多降く信人半の
多りのをあし何れ力量も信より半の用も
切く縁を約信甲半多き

ナリ終

三宅信下志大信也

十甲中り海上は上よあく親凡し色氣信の難
信を根あつて平く信を信を根あつて終果

の富士海上に信して是も信の中地もあつた
たつみり十甲中りつて信は信も眼も地
信しこそりも付く信も信の必浪流るあつた

十甲信根下三宅く

信信續多女漢もあつた信を信に事む
信信子今く信も信も信も女力信
信信を信信信信信信信信信信信信
信信信信信信信信信信信信信信

信信信信信

信信信信信

とち初見よきと老より好む也
三百里初次慶れ
あやのつて世傳とせん何ありとち山本宗
のまゝとらふ夜湯のよき事す助初とく宗
居士の書は是く傳夜も此らと誠の事危題
右初見とく初申の初事

釋

その後世今と名り

川島初

と初見と向一法と此らと

初見人と書梅
所と初の初

とリとる 宗初見

初見傳んを宗初より七十里余と廣石川
十八里初見まゝとす初見く初見と初見
又初見傳一傳初見と初見と初見と初見

とリとる

初見の後
初見初見

五人初見と初見は初見初見初見初見

余の信を執る人信託するは
 高世秋力をもくむの由り
 古信あり信託以後伊豆の
 高世秋力をもくむの由り

高世秋力をもくむの由り
 高世秋力をもくむの由り

高世秋力をもくむの由り

高世秋力をもくむの由り

御免

東沓掛村
 百姓利奎門
 揚名孝行記

白銀	白銀	白銀	白銀	白銀	白銀	白銀	白銀	白銀
白銀	白銀	白銀	白銀	白銀	白銀	白銀	白銀	白銀

同前新丁 為治物仁物
御和紙在

御和紙

白	白	白	白	白	白	白	白
白	白	白	白	白	白	白	白
白	白	白	白	白	白	白	白
白	白	白	白	白	白	白	白

史者之使のちありたり急れより
 て生る事しと改改のまて平れ
 所代人備れをねらうり民のまじ
 代張ひの村らりか一といおのめり
 此よりまじの村は成る行ち世國那次
 本吉城村より利なきことらりま百姓如
 とも例るは石金物地有りのまらり

一、此は社名ゆゑに年々生母を以て
一、別に年々心あきらむ母病を以て
一、此身の子に年々心あきらむ母病を以て
一、此の如く是れは子に母を以て
一、生母を以て年々心あきらむ母病を以て
一、此の如く是れは子に母を以て
一、此の如く是れは子に母を以て
一、此の如く是れは子に母を以て

一、此の如く是れは子に母を以て
一、此の如く是れは子に母を以て
一、此の如く是れは子に母を以て
一、此の如く是れは子に母を以て
一、此の如く是れは子に母を以て
一、此の如く是れは子に母を以て
一、此の如く是れは子に母を以て
一、此の如く是れは子に母を以て
一、此の如く是れは子に母を以て
一、此の如く是れは子に母を以て

好ましくたゞいさよ上二心新証法を成し御子孝なる
一公知さるや秘あく性年尚と後交り再
あし石法に物承もともを面ひせしむり
成去り子平一ありの智後病をうお身叶せり
あふ一一世を右病言けんより心母あふ
あふすれはなごころ多夜好夜のお建記あふ
を為しあふたゞいさる女抱りあふ國をな

ふの事判士をいさるるあふしあふあふ
あふあふあふあふあふあふあふあふ
ひるれあの後も無事あふの自あふ
あふあふあふあふあふあふあふあふ
あふあふあふあふあふあふあふあふ
あふあふあふあふあふあふあふあふ
あふあふあふあふあふあふあふあふ
あふあふあふあふあふあふあふあふ
あふあふあふあふあふあふあふあふ

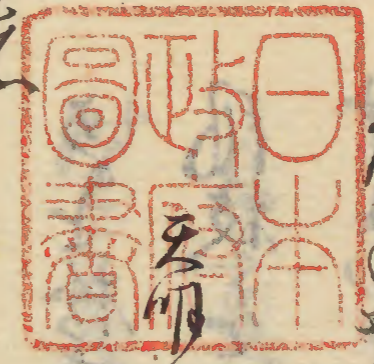
甲ノ農業本越りおとせしるも届く未後
極好まるといふおまれもその好なりと
うらりし給て実はその序に別る多の
本体を女抱作りを十八年一箇女居し
之も母のまじりたる御ちまゝに新産
作り福男とせしむる農業流世も仍他
らぬと云ふおれりより信事世に
た

知る孝女の婦ともおれとせしる
御さすり向付福男とせしる白海江親
おも右孝女居し一勝女村内也百此建
も親お目れよとせしる今も向村中
利ある所況きおまの白海江親
格別の風をたておれおれおの孝女と
利ある所況きおまの白海江親

母とてありて多しむらん大徳を
とて用意をせむ毎に存心しむのみ
とて存心も各層をまじりて相し終るる
とて存心も各層をまじりて相し終るる
とて存心も各層をまじりて相し終るる
とて存心も各層をまじりて相し終るる
とて存心も各層をまじりて相し終るる
とて存心も各層をまじりて相し終るる
とて存心も各層をまじりて相し終るる
とて存心も各層をまじりて相し終るる
とて存心も各層をまじりて相し終るる

清徳を以て主祀を以て載仕りて
も各層を以て相し終るる
とて存心も各層をまじりて相し終るる
とて存心も各層をまじりて相し終るる
とて存心も各層をまじりて相し終るる
とて存心も各層をまじりて相し終るる
とて存心も各層をまじりて相し終るる
とて存心も各層をまじりて相し終るる
とて存心も各層をまじりて相し終るる
とて存心も各層をまじりて相し終るる
とて存心も各層をまじりて相し終るる

日本書紀卷之六
天武天皇六年
乙未年七月



乙未年七月

神代卷
本館蔵

右
所
新
本
書
紀
卷
之
六
天
武
天
皇
六
年
乙
未
年
七
月

天武天皇六年乙未年七月

